令和4年度（R4年4月～R5年3月） 学 校 評 価

◇ 評価点は、Ⅰ～Ⅸのカテゴリーごと各項目を、〔3 ： あてはまる ２ ： ややあてはまる １ ： あてはまらない〕と採点し、その平均点として表したものである。各カテゴリーの点検内容については別紙公開の「看護師等養成所の自己点検・自己評価指針」を参照。

カテゴリー ・ 項目数	自己評価	学校関係者評価
Ⅰ 教育理念・教育目的 （11項目）	評価点〔 3．00 〕 設置目的、カリキュラム改正意図を踏まえ、検討したものを明示している。多様化する学生への教育のあり方について、評価するためにも、学生像を柔軟に捉えなおす必要がある。性の多様性に関する学習環境への配慮も、引き続き具体化していく。	評価点〔 3．00 〕 性の多様性については非常にデリケートで難しい問題。これまで顕在化していなかったがだけかもしれない。ユニフォームの検討とともに、更衣室や演習時の配慮など検討してほしい。
Ⅱ 教育目標 （ 7項目）	評価点〔 3．00 〕 ディプロマポリシーを教育目標に置き換え明示している。3年間で段階的に目標をもって学習できるよう、ディプロマポリシーとの繋がりがわかる学年別到達目標を提示している。卒業時の姿を意識しながら学習できるように支援していく。	評価点〔 3．00 〕 自己評価の内容を承認
Ⅲ 教育課程経営 （31項目）	評価点〔 2．96 〕 ナイチンゲール看護論を教育の基盤に起き、講義・演習科目を教授し、臨地実習に活用できるよう構成し教授活動を行っている。教員の授業準備時間の確保につながるよう、実習指導体制の変更、実習控室のネット環境の整備に取り組む。 臨地実習については、実習指導者とカリキュラム改正で大きく変更した実習内容の共有を図り、学生の安心を保証できるよう対処する。	評価点〔 2．96 〕 実習指導に対する前向きな気持ちはあるものの、現在の学生像の理解が難しいと感じている指導者もいる。学校ごとの実習のねらいを十分理解することは、多忙な現場では容易ではないため、教員の協力が必要。引き続き連携をとっていってほしい。 学生の年度末の評価には、厳しい意見も見受けられる。学生への対応について、対人的な教育技術の研修を実施するなど、学校として工夫して対処してほしい。
Ⅳ 教授・学習・評価過程 （17項目）	評価点〔 3．00 〕 教育理念から単元の指導目標まで一貫性のあるものを設定している。教員によるカリキュラム評価と学生からの評価を踏まえ日々改善に取り組んでいる。技術教育について、タスクトレーニングとしての技術試験は必要最小限にし、原理原則をもとに援助技術を考え実施する授業展開にシフトした。今後は、学年ごと段階的に判断力、実践力を向上させるプログラムを展開していく	評価点〔 3．00 〕 ICTを進める中で、ChatGPTを使ったレポート提出など、学校としてどう対処するか、今後検討してほしい。
Ⅴ 経営・管理過程 （36項目）	評価点〔 2．91 〕 卒業生の多くは市内の公的病院に就職しており、地域医療に貢献する看護師養成という、設置目的は果たしている。R4から再開した静岡市看護師養成の将来構想についての話し合いは、今後も継続し、社会のニーズに合わせた看護師養成になるよう、設置者と連携していく必要がある。 臨床との乖離を避けながら実践力を育てるための、ハイブリッド型シミュレーター、電動ベッドなど教材備品の充実を図った。今後は施設の経年劣化に対する修繕の計画的実施、保守管理を継続して取り組んでいく。	評価点〔 2．91 〕 学校運営について、2にしている項目があるが、コロナ感染症の影響によるところもある。できていなかった点を意識している点は評価できる。今後も継続して検討を続けてほしい。
Ⅵ 入学 （ 2項目）	評価点〔 2．50 〕 18歳人口の減少、看護系大学の増加、高校生の大学志向など、入学希望者の確保は危機感を持って取り組んでいる。 入学後の成績推移では、単位未修得者など課題が残った。一時的なものか今後の推移を注視し、入学者選抜方法の妥当性も再度検証する必要がある。R5年度は定員数確保できた。	評価点〔 2．50 〕 自己評価の内容を承認
Ⅶ 卒業・就業・進学 （ 8項目）	評価点〔 2．75 〕 看護師国家試験の合格率は14年連続100％であり、卒業時の教育水準は維持できている。卒業生の多くが就職する主たる実習病院と、定期的に情報交換する機会を持ち、卒業生の動向について把握している。 卒後1年時点のアンケート調査を今年度もWebで実施した。回収率の改善を図る工夫をしたが、改善されなかった。R5年度の活動で、卒業生の意見の分析と活用の検討を行う。	評価点〔 2．75 〕 卒業生のアンケートについて、就職1年目は余裕がなく、回収率の改善は難しい。卒業前にアンケートについて予告するなどで変わってくる。さらに工夫を検討してほしい。
Ⅷ 地域社会／国際交流 （10項目）	評価点〔 2. 70 〕 地域・在宅看護論の授業を通し、地域との交流の機会が増えたトロベーWeekの協賛など、地域のニーズに応える活動を行っていく。 国際看護については、新カリ3年次の「国際看護・災害看護」の授業方略を検討する必要がある。	評価点〔 2. 70 〕 地域とのつながりという点は、看護について地域の皆さんに知ってもらうという点で、非常に良い。これからも続けてほしい。
Ⅸ 研究 （ 3項目）	評価点〔 2. 66 〕 研究に取り組める時間的保障に不足がある。教務事務を活用にs他業務整理により、時間的保障の改善を図る。	評価点〔 2. 66 〕 自己評価の内容を承認

◇学校関係者評価会議　令和5年4月20日　本校会議室で開催

委員長　櫻井　郁子（公益社団法人静岡県看護協会常務理事）
副委員長　市川　昭美（地方独立行政法人静岡市立静岡病院副看護部長）
委員　間淵　元子（医療法人社団宝徳会小鹿病院看護部長）
委員　柴田　正人（静岡市立静岡看護専門学校後援会会長）

事務局　瀧　泉（副校長）
殿岡　和明（事務長）
赤堀美智子（教務長）
松永　貴子（技監）